

クラス番号	908	担当教員名	金山 正美
テーマ	福祉実践とその背景にある理念について考える		

ゼミナール概要

目的、内容、方法等：

私は、長い間、ある入所型の障がい者施設で働いてきました。その玄関を入ると正面の壁に、施設の運営理念の「共に生きる」と書かれた額が掲げられています。この言葉には、職員もそこで暮らす障がい者も分け隔てなく、同じ仲間として、差別のない共に生きる社会を目指し活動していこうという願いが込められていました。この理念の実現のために、福祉実践では、どんなに重い障がいがあっても一人の人として関わっていくあり方が徹底されてきました。トイレ、入浴では同性介護はもちろん、全員おむつをしない取り組みも行われていました。また、利用者に関わるプログラムに関しては、全員参加の話し合いの中で決められていました。そこには、言葉の理解の難しい重い障がいのある人たちも参加していました。実に35年前に、所謂、ここでの福祉実践は、今日のソーシャル・インクルージョンへの具体的試みであったといっても過言ではありません。この理念のモデルは、実は、皆さんもよく知っている近江学園を開設した故糸賀一雄の著書『この子らを世の光に』で著されている考え方が基盤になっています。

さて、前置きが長くなりました。福祉施設は、それぞれ目指すべき理念を掲げ実践しています。今日では、サービス業と捉えられている面もありますが、上記のように、共感的交わりの中で、福祉実践を捉えている面もあります。福祉に関する価値観も時代の流れとともに変化していくことはやむを得ないことだと思いますが、変わらないこともあるはずです。この社会福祉基礎演習では、そのことをしっかりと押さえることが、3,4年生の専門演習の大切な土台となると考えました。

次に、このゼミでは、フィールドワークを大切にしたいと思います。グループで施設や親の会などの運動団体を訪問してインタビューを行い、その理念とそのための具体的実践を集約する中で、学びを深めていきたいと考えています。

授業計画：

前期は「実践」と「理念」の意味についてレポートにまとめます。1回目のフィールドワークに出かけます。後期はフィールドワークに出て、グループごとに訪問先の実践と理念の実際を理解し、そこから導き出されることをまとめます。

テキストは、『この子らを世の光に』NHK出版を使用しますが、絶版のため資料は教員のほうで準備します。

担当教員からのメッセージ

2013年度には、障害者総合支援法が、障害者自立支援法にかわって施行されることが決まりました。残念なことに、「障がい者制度改革推進会議」でまとめられた提言のほとんどが見送られ、障害者自立支援法の廃止ではなく名称のみが変更されたにすぎません。特に悪評の高い「障害程度区分」、「利用者負担」の廃止は、障がい者を保護する対象ではなく権利の主体であることを意味するはずですが、見送られました。しかし、皮肉なことに法の目的である「共生社会の実現を目指す」という理念は盛り込まれました。理念とは、制度の背景にもある重要な考え方ですが、それを具体化するための実践部分である制度に問題があるところが理解できます。こうした理念と実践に関する問題について興味のある学生は、是非一緒になって学んでいきましょう。